

目的 現在、地球的規模で資源の大量消費とそれに伴う地球環境の汚染等が内外ともに問題となっている事などにかかわっている経済大国から、資源の有効利用を目指した人間中心の生活大国へと総合的な対策を展開しつつある。このような社会の流れを踏まえて、家庭生活を中心に個人の資源エネルギーに対する認識を高め、省資源・省エネルギー等を意識したライフスタイルの確立を目指すため、衣食住等家庭生活を支える生活資源のライフサイクルを把握し、資源の総合利用方策について検討する必要がある。そこで本研究では、家庭生活における個々人の資源に対する認識を把握するため、各家庭から排出される廃棄物とそれらの廃棄方法について調査、分析し、今後の課題についても検討した。

方法 東京地区の大学に在学中の学生およびその家族を主たる調査対象とし、その家庭で1995年11月～1996年1月までの間の2週間に廃棄したものについて、品目別に廃棄個数、廃棄方法、再利用の仕方および割合等を調査、集計を行った。

結果 食生活に関する廃棄物において、埼玉県川越市在住の5人家族の場合では、廃棄総数は287個で、その内再利用のため回収個数は71個であった。発砲スチロール容器（肉・魚品用、野菜用他）、缶、ビン、牛乳パック、ペットボトルは地域の回収システムにより100%回収され、又家庭内再利用でも地域の回収システムに多く影響を受けた。